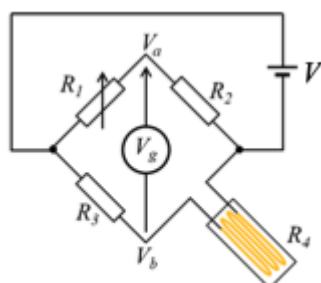


本書に関して貴重なご意見・ご指摘を頂きました大坪義一先生(近畿大学准教授)に深く感謝いたします。

数式の一部に latex の書式を使用しています。

・p.82, 図4.4 (b), ひずみゲージR4の両足間の接続線を削除し、VbからVaまでの矢印線を少し短くして四角形の頂点から少し離す。



(b) ひずみゲージ用ブリッジ回路

■■■ここより下、初版第5刷までに反映済み■■■

- ・p.46, 式(1.78), (測定測定)→(測定誤差)
- ・p.66, 式(3.4)の下1行目, 「式(3.2), 式(3.3)より」→「 $f(t)$ と $g(t)$ の平均値はともに0とする。式(3.2), 式(3.3)より」
- ・p.19, 1行目: い。→い。2022年に $10^{\{30\}}$ 、 $10^{\{27\}}$ 、 $10^{\{-27\}}$ 、 $10^{\{-30\}}$ を表す、Q(クエタ)、R(ロナ)、r(ロント)、q(クエクト)が追加された。
- ・p.18, 表1.6の右に2列追加:

ロナ	クエタ
R	Q
$10^{\{27\}}$	$10^{\{30\}}$
ロント	クエスト
r	q
$10^{\{-27\}}$	$10^{\{-30\}}$

- ・p.21, 1.2.1 (1)直接測定, 3行目, 「質量, 温度計による温度など」→「質量の測定, ノギスやマイクロメータによる寸法」
- ・p.21, 1.2.1 (1)直接測定, 4-6行目, 「測定量が長さ, 質量・・・ともいう。」→ 削除
- ・p.22, 上6, 7行目, 「基本量だけを・・・測定を絶対測定(absolute measurement)ともいう。」→改行して「測定中一定な値をもつとみなすことができる量の測定を、静的測定(static measurement)という。変動する量の瞬時値の測定を、動的測定(dynamic measurement)という。」
- ・p.22, 例題1.4の問題文の「絶対測定」→「間接測定」
- ・p.22, 例題1.5の問題文の「絶対測定」→「間接測定」

